



序 文

阿波学会会長 石 井 愼 義

徳島県三好郡三野町は、徳島県西北部に位置し、標高千メートルを超える大川山をはじめとする讃岐山脈の山並みから南、吉野川に向かって下る斜面や谷川に沿った、いわば山地の部分と、吉野川北岸にほぼ三角形に広がる平地の部分とから成り、その町境の可成りの部分は香川県と接している。

今年度阿波学会では、昨年の盛夏を中心にして、この三野町について18班、134名によって様々なテーマによる総合的な学術調査を行った。その成果を阿波学会紀要第49号としてまとめ、ここに公刊することとする。

本学会を構成する学会の内、残念ながら諸般の事情で今回の調査に参加できなかった学会もあるが、創立以来50年に近くなった本学会の経験も生かした調査、並びに報告が成されたと考えている。しかし一部には、この限られた報告書のスペースでは掲載しきれないために、割愛された部分もあるが、お許しいただきたい。

三野町の人々の暮らしの基になり、生活の底に流れている自然環境の特徴はどのようなものか。三野町は、他町とは山稜、谷筋、大河などで仕切られているためか、歴史的に見ても、現在の他町との離合はなかったようで、比較的まとまった地域であり続けたのかも知れない。とすれば、この地ではぐくまれた独特の文化、他の地との交流によって得られた共通の文化、は何か。本地域内の山地部分、平地部分で、文化的な違いがあると思われるが、それは何か。それぞれ、他地方に見られぬものも多いはずだが、どのようなものがあるのか。一方、集落からの標高差があまり大きくない山を越えれば香川県であり、古来讃岐との往来が盛んであったやに思える。そこで伝えられたもの、伝えたもの、は何であったのか。さらに、町の南端を区切って流れる大河、吉野川の及ぼした影響は何であったのか。吉野川より南の地域との関係はどうであったのか。本調査報告書は、このような疑問の多くに答えてくれるものと考える。

今回の調査に当たっては、教育委員会をはじめ三野町の各部局の方々にいろいろとお世話になった。また、多くの町民の方々のご協力、ご支援をいただいた。ここに心からの感謝の言葉を申し上げたい。さらに、昨年末に三野町内で開かれた調査結果発表会には、過去の発表会にないほど多くの町民の方がご出席下さり、調査者との間に熱心な質疑討論を行っていただいた。その結果も本報告書の内容に反映されているものと思い、当日ご参加いただいた町民の方々にもお礼を申し上げる。

この総合学術調査の結果が、三野町民の方々が自分の町を客観的に眺め、改めて町について考えることに役立ち、町の今後の更なる発展に寄与することを期待している。猛暑の中、あるいは年間を通して調査に当たった調査班員の方々には、その成果が世に生かされ、苦勞が報われることを信じていただきたいし、今回得られた結果が今後どのように変化して行くか、を注意深く見守って欲しい、と思っている。